



2005年3月31日 第24号

# JSSH NEWS

## 日手会ニュース

発行：日本手の外科学会  
広報委員会

### 第48回日本手の外科学会の 開催にあたって

第48回日本手の外科学会  
会長 土井 一 輝  
(小郡第一総合病院院長)

#### 目 次

- 第48回日本手の外科学会の開催にあたって
- 5th APFSSHを振り返って
- 2004年度 JSSH-ASSH Traveling Fellow 報告記
- 香港 Traveling Fellow 報告記
- 新名誉会員紹介
- ハンドギャラリー(児島コレクション)
- 各種委員会報告
- お知らせ =学会案内=
- 編集後記

第48回日本手の外科学会学術集会会長として、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。第48回日本手の外科学会は、平成17年4月21日(木)、22日(金)の2日間、第11回日本手の外科学会春期教育研修会は23日(土)に山口県海峽メッセ下関で開催いたします。

正式な開催挨拶はプログラムの方をご覧ください、本広報では学会準備の裏話的なこととお話します。

学会の開催場所につきましては、山口市、下関市、北九州小倉、福岡と候補にあげましたが、会場の収容人員、地方開催の特色を出したいという二つの条件を重視し、今回は宿舍の問題もありますが、下関を選びました。個人的にも下関と門司の間のウォーターフロント、関門海峡は山口在住の小生でも、いつ訪れても、ノスタルジアに浸ることができる場所でもあります。源義経、宮本武蔵、高杉晋作、伊藤博文など歴史上の人物になって回想し、たまには都会の喧騒を忘れ、のんびりしたひと時をお過ごしいただきたいと存じます。

#### 下関のふぐ

名物のふぐは「彼岸から彼岸まで」といわれており、4月は時期外れと思われる方もおられると思いますが、下関のふぐは4月でも食すことができます。下関のふぐは伊藤博文が絶賛した春帆楼が最も有名ですが、学会期間中は予約が困難かも知れませんが、一度、東急観光を通してあたってみてください。一人前、3万円が一般的な値段です。市内にはこれより安く同じ内容のふぐコースをだす料亭、旅館が沢山あります。唐戸市場の近くにあるカモンワーフの中の2階の回転寿司も大変有名です。待ち時間を気にされなければ、一度挑戦してください。きっとご満足されると思います。

#### 学会場へのアクセス・宿泊

学会場へのアクセスは新幹線小倉駅を拠点とするのが便利です。私も早朝通勤時の電車で2回試しました。JR小倉駅とJR下関駅(新幹線新下関駅とは別の場所にあります)間は13分で、通勤時には20分間隔で電車が走っています。会場はJR下関駅から徒歩5分(実際に小生の足では6分30秒)で到着します。昼食はランチョンで750名分用意しますが、JR下関駅前か、巡回バスで唐戸(下関グ

ランドホテル近辺)にお出かけになり、カモンワープで、地方の海の幸をご賞味いただくのも一興かと存じます。

夜の案内には私は不慣れですので、学会までには同門の先生から情報を集め、トラベルデスクにご用意いたします。

宿泊ですが、下関市には400名程度しか宿泊できません。交通の便からは小倉が便利ですので、小倉のホテルをご利用下さい。特にアフターファイブを重視する方は小倉をお勧めします。穴場は門司港ホテルです。設計はイタリアを代表する建築家、アルドロッシ。レトロな面影を残す港町の空気に不思議と調和したシックでモダンな海辺のホテルです。ロマンチックでレトロな雰囲気を楽しめます。会場にはフェリーで5分、タクシーで5分です。外国にいる錯覚に陥ることは請け合いです。

## 学会内容

さて、本題の学会内容の方も少しお話しします。現在、日手会では手の外科専門医制度について検討していることは周知のことと存じます。その討議は学術開催内容とは直接関係ありませんが、手の外科学の教育制度についての問題提起もかねて、特別講演、シンポジウム、パネル、専門研修講座を計画しました。特に、専門研修講座は米国手の外科学会での Instructional Lecture Course を見習って、会員の皆様の提案から10テーマを選択し、教育的な内容のものを6テーマ採用し、未だ論争中のものはパネルとしました。これらは、すべて手の外科専門医には研修必須科目です。ただし、会場の関係で4題同時進行になり、聞き逃すこともありえますので、現在、ビデオ録画を行い、会場で放映すると共に、日手会教育研修委員会にDVDライブラリー保存により、会員に広く頒布する方法を提案する予定です。手術実技も教えるワークショップを計画したのですが、費用と会場の都合でやむなく中止にしました。今後の学術集会では手術実技の研修機会も計画していただきたいと存じます。

私は大学教室の主宰者ではありませんので、学会スタッフ、予算にも制限が付きまします。また、外国の学会に比べて、日本の学会は華美すぎるとの非難も以前からあり、学会の簡素化が現在の主流になっております。本学会もできるだけ簡素に余分なものは省くように心がけました。会場の講演案内の垂れ幕なども講師の先生には申し訳ありませんが、今回は会場には掲げておりません。また、演題発表の進行も座長の先生に全面的にお願いし、進行係も最低数の配置とし、ウグイス嬢は第1会場のみとし、他会場のアナウンスは座長の先生にお願いしました。学術集会は主催者ではなく、会員が運営する本来の方策を検討していただきたいと存じます。

一般演題は378題の応募をいただき、プログラム委員の先生方の精力的な査読により、採点点数により口演、展示討論、一部シンポジウム演題として320題を採用させていただきました。各査読者5点満点、一演題3人の査読により15点満点で8点がボーダーラインになっています。8点の演題のみ、会長である私が、プログラムのセッション毎の演題配分により採否を決めました。応募の多かった「橈骨遠位端骨折」「手根管症候群」は他の分野に比べて採用率が低くなっています。また、基礎的演題、特にバイオメカニクスなどはポスター発表が適しているので、ポスターを優先しました。不採用でご不満の先生もおられると聞いておりますが、低い採点根拠のコメントもお知らせしようかとも考えたのですが、慣例もあり、今回は見送らせていただきました。次回のご奮闘をお祈りしております。

今回は臨床の演題が主体となり、基礎研究者の方にはご不満もおありかと存じます。科学として手の外科学の進歩も重要ですが、教育、EBM、QOLと自分たちの臨床の足元を見直す機会にしていたいただきたいと存じます。

## 最後に

日手会も専門医制度を機会に大きく変わろうとしています。専門知識のみでなく、各種情報収集のためにも、ぜひ第48回日本手の外科学会学術集会にお出かけ下さい。

それでは、沢山の皆様が下関の地にお越しなるのをお待ちしております。

おいでませ山口へ、おいでませ下関へ。

## 第5回アジア・太平洋手の外科会議(5th APFSSH)を振り返って

Congress President 生田 義和

第5回会議を日本において開催するという決定を受け、日本手の外科学会の役員や評議員を基盤にして本会の組織委員会を結成し、当初は平成15年11月26日から開催することとして鋭意準備を進めておりましたが、ご存知のごとく平成15年春に重症急性呼吸器症候群が猛威を奮い、組織委員会で検討を重ねた結果、1年の延期を決定して平成16年11月12日から大阪国際交流センターにて開催致しました。幸い好天にも恵まれ、4日間を通じての参加国は加盟国以外から14カ国、合計27カ国(中国、チェコ、フィンランド、フランス、ハンガリー、イタリア、リトアニア、ポーランド、スウェーデン、イギリス、アメリカ、ベトナムなど)に及びました。

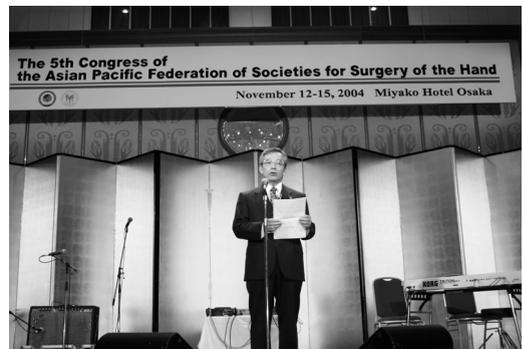
参加者が最も多かったのは当然ですが日本から374名、ついで韓国66名、シンガポール20名、香港18名、タイ14名、イタリア11名、インドネシア10名、など多彩な顔ぶれで、合計約600名でした。一般演題は口演が225、ポスターが118、招待講演8、シンポジウム7、パネルディスカッション6、教育講演6、モーニングセミナー2、ランチョンセミナー7、ワークショップ3でした。シンポジウムでは「手の皮弁移植」、「舟状骨骨折」、「手のスポーツ外傷」、「手の先天異常」、「橈骨末端骨折」、「鏡視下手術」、「アジア人としてアメリカに留学して」、パネルでは「アジアにおける手の外科指導のボランティア活動」、「アジアにおける手の外科の現状」、「足指を利用した手指への移植」、「手の感染症」、「腕神経叢麻痺」、「手の同種移植」でした。「手の同種移植」は中国での第一人者のDr. Guoxianの長期成績やマレーシアのDr. Pathmanathanによる一卵性双生児間の新生児の上肢の同種移植後3年目の経過報告など、興味深い発表でありました。

しかし、個人的には、私が学会長として取り上げたもののひとつである「発展途上国への手の外科教育」の発表が含まれていたボランティア活動のパネルが興味深く拝聴しました。演者の1人オーストラリアのDr. Conollyが長年ベトナム、インドネシア、インド、パキスタン、ラオスなどでボランティアとして活動した経験を述べましたが感動的でした。一方ベトナム側からの出席者の発表で、この活動を受けた国、病院としての経験はより興味深く拝聴しました。

今回の学会では、例年と異なる特徴的な行事をいくつか試みました。そのひとつは、「日本手の外科



ローカルホストコミティと



JAPAN ナイトにて生田会長のご挨拶



JAPAN ナイト風景

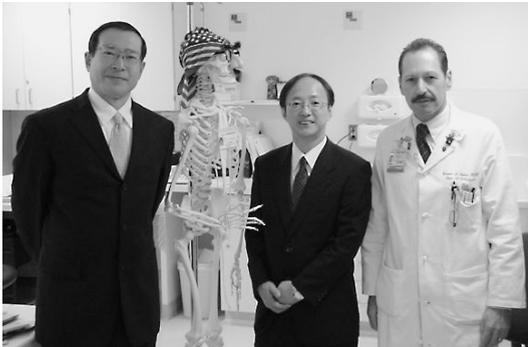


トナーである Dr Vedder は、当病院が全米トップレベルの外傷センターであると自負されていました。

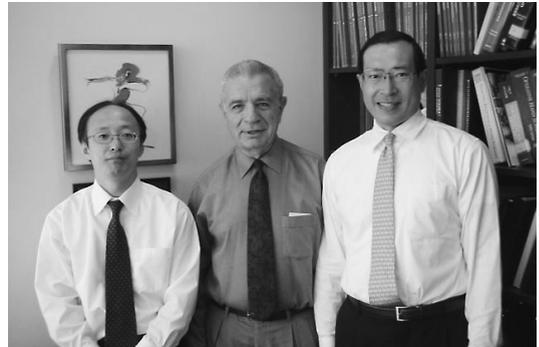
学術以外でも各地で温かい歓待を受け、新鮮なシーフードを満喫できました。親道家でしゃれのきいた Dr Szabo にはわざわざ自宅に招いていただき、手料理をご馳走になりました。また Dr Hentz の心温まるもてなしと含蓄のあるお話には感激しました。温厚な人柄でゆっくりした話し振りとは裏腹に、休日には 1.2L の BMW にまたがって海岸沿いを疾走するという話を熱っぽく語る姿に、われわれ二人は目をまるくするばかりでした。

今回、付随して訪問できたミシガン大学形成外科、フィラデルフィアハンドセンター、メイヨークリニックでは、新進気鋭で clinical research を活発におこなっている Dr. Kevin Chung, 1日に14例ものマジックのような手術を見せていただいた Dr Lee Osterman, Cadaver を用いた解剖の講義にも参加させていただいた Dr Richard Berger から多くの知見をえることができました。

最後に、今回の訪問でご尽力をいただいた生田義和前理事長、二見俊郎国際担当前理事をはじめ、日本手の外科学会の皆様へ深く感謝いたします。



UC Davis 整形外科で Dr. Robert Szabo を訪問



Orange County Hand Center の Dr. Julio Taleisnik を訪問

## 京都大学整形外科 柿木良介

この度、日本手の外科学会—アメリカ手の外科学会交換留学生として、2004年9月に約4週間、医真会八尾病院整形外科の面川庄平先生とアメリカ西海岸の手の外科病院、施設を訪問させていただきました。日程の調整に御尽力頂きました別府諸兄先生、Peter Weiss 先生、国際担当理事の二見先生、同委員長の矢島先生はじめ日本手の外科学会員の皆様様の御支援、御協力に対しまして御礼申し上げます。

Fellowship はニューヨークでの2004年度アメリカ手の外科学会学術集会への出席で始まりました。

その後カリフォルニア州に移動し、9月13～17日まで、Sacramento市のUC Davis校 Robert Szabo 教授、Stanford 大学形成外科の Vincent Hentz 教授、Buncke Clinic の Glegory Buncke 先生を訪問しました。

特に Buncke Clinic は、治療困難な外傷患者に対し、遊離組織移植を駆使されていて大変魅力的でした。9月20～22日は UCLA 形成外科の Niel Ford Jones 教授を訪問し、先天性橈側列欠損患者に対する足趾移植を見学する幸運を得ました。9月23・24日は、Hand Care Center of Orange County の Julio Taleisnik 先生を訪ねました。御年70才を越えるというのにとってもお元気でした。手術もお上手でとても70歳の人の手術とは思えませんでした。9月27～29日、Seattle の Washington University 整形外科の Thomas Trumble 教授を訪問し、全日程を終了しました。

忙しい旅でしたが、パートナーの面川先生にも助けて頂いて本当に貴重な経験ができました。手の外科に対する視野を広げ、人の輪も広げることができました。今後はこの fellowship で学んだ経験をいかし、ますます臨床、研究に研鑽したいと思います。ありがとうございました。

## 香港 Traveling Fellow 報告記

大阪労災病院整形外科  
安田 匡孝

SARSの影響で1年延期となっていたのですが、内山茂晴先生、副島修先生、中村俊康先生に続いて4人目のフェローとして第17回香港手の外科学会に参加させていただきました。学会は、Dr. YY Chowを会長として2日間香港大学内で開催され、アジア通の戸部正博先生はスカラーとしてのご参加、私はdorsal wrist syndrome repairの口演をしました。ゲストとして藤哲教授とProf. PJ Sternが招待されておられ、複数の教育研修講演と実手術提示をされました。初夏でしたが冷房が強烈であり、寒さに閉口しました。後日、香港中文大学で、舟状骨偽関節の手術ビデオの提示を行いました。Prof. LK HungとDr. PC Hoの病棟回診・外来では外傷・マイクロ症例が多いとの印象を持ちました。学会以外にも香港大学のProf. SP Chow、交換フェローのDr. CY Lo、世話係のDr. KY Choiを含め多くの先生方より連日の暖かい歓待を受けました。ここに深く感謝します。医療制度についてですが、public doctor（医師の90%）は一般に日本より高給で、政府より給料に関しconsultant, associate consultant, doctorに分類されているそうです。高物価の香港でも日本の医師よりも裕福であるようでした。

また、上海で行われた、徐建光先生を会長とした第9回中国手の外科学会においても口演をさせていただきました。日本からも多くの有名な先生方が招待を受けておられました。観光で蘇州等に行きましたが、発展著しい反面、環境悪化が問題であると感じました。

最後になりましたが、私をフェローに推薦して頂きました、大阪市立大学教授：高岡邦夫先生と元大阪労災病院部長：政田和洋先生、そして貴重な経験の場を与えて頂きました日本手の外科学会国際委員のメンバーをはじめ会員の皆さまに深く感謝いたします。



第17回香港手の外科学会終了時、スタッフやゲストとともに

## 新名誉会員のご挨拶

京都府立医科大学名誉教授

平澤 泰介

伝統ある日本手の外科学会（以下、日手会）の名誉会員にご推挙いただき大変光栄なことと思う。小生の「手の外科」との関係をとどけてみると、インターンの頃にさかのぼる。本学会に、当時エリート視されていた米国横須賀海軍病院の先輩の山内裕雄先生や上羽康夫先生が居られたことである。当時東大の医局長であった山内先生が、小生があこがれて合格した海軍病院の senior intern として、16名のインターンをまとめて東大や椿山荘でのカンファレンスに出かけた折に、流暢な英語を話され、かつこの良さに感激したものである。

大学院2年生でカリフォルニア大（UCLA）に留学していたときに「手の外科国際連盟（IFSSH）」の第1回理事会がアメリカ・シカゴの Palmar House Hotel で開催され、当時日本代表の諸富武文教授の通訳として参加することができた。1967年1月、大雪のシカゴの名門ホテルで、A. T. Barsky 会長、R. Tubiana 先生、E. Zancolli 先生達とともに深夜まで続いた会議に同席することができたのは感激であった。留学の帰りに恩師 L. Marmor 先生の心づかいで、Moberg 先生（スウェーデン）、Zaousis 先生（ギリシャ）、Hodgson 先生（ホンコン）達に Audiosynopsis 開催の親書をたずさえてお目にかかり、世界一周して帰国することができた。

1972年 Harvard 大学留学の帰途、Washington D.C. の学会に出席した折、ドイツ留学から帰国途中の生田義和先生と一緒に、郊外のボーリング場で楽しんだことも忘れがたい。

助教授時代には、Röntgen 教授が居られたことで有名なドイツ Würzburg 大学の客員教授として留学し、外来診療中に同じ大学の手の外科の expert の U. Lanz 教授にめぐり合い、ときどき Weinstube を一緒に訪ねてワインをくみかわすことができた。

小生が第43回日手会会長の折、IFSSH 日本代表の山内先生の御好意で第3回日米手の外科合同学会をハワイのマウイ島で開催することができた。この国際学会の会長としての経験は昨年、日韓リハビリテーション（以下、リハ）医学会を京都で開催するとき大いに役立った。日米学会と同様に150名の海外からの参加者を加えて550名の参加者で盛大に終了することができた。

以上のような日手会の好意にお返しする意味をかねて、昨年開催されたアジア・パシフィック手の外科学会（APFSSH）のパネルディスカッションで“Voluntary hand surgery in Asia”の演者予定者のオーストラリア Scougall 先生（Conolly 先生の弟子）を、日本リハ医学会のフェローとして招き、日本の手の外科臨床の実際を見ていただく機会を得た。これは小生が運良く日本リハ医学会の国際委員会担当理事を勤めていたからであった。そして APFSSH のパネルディスカッションを成功裡に終えることができた。なお、小生と日本リハ医学会との関わりは、1997年世界リハ医学会が京都で開催されたときに、津山直一名誉組織委員長の下で、会場運営部長としての小生の働きが評価されて、日本リハ医学会の理事に選ばれたことにはじまる（写真）。



故津山直一名誉会員と  
（世界リハ医学会にて、京都）

以上のように皆様の御好意に甘えて、母校を幸せに退官することができたが、昨秋1つ大きな仕事が舞い降りてきた。それは「日本末梢神経学会」の理事長である神経内科の権威 祖父江逸郎先生が高齢（82歳）を理由に退意を示され、小生を後任に推薦して下さったことである。学会事務局は名大神経内科にあり、会員数が神経内科医6割強と多く、小生は固辞したのであるが、理事会で決定され

てしまった。整形外科からの会員はほとんどが日手会の「末梢神経を語る会」のメンバーであり、本学会に関係の深い会である。さしあたっての「理事長」としての仕事は会員を増やして会の発展をはかることである。日手会の皆様の御協力—できれば入会によって小生の役割を援助して下さいを期待したい。

名誉会員への御推挙に心から感謝するとともに「日本末梢神経学会」の発展に御支援下さるようお願いしたい。

## ハンドギャラリー(児島コレクション)Ⅴ

埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所

児島忠雄

### 4. 祈りの手

人と動物を分かちつものは、石の道具や火の使用にもまして「祈り」の動作であると言われています。東洋、西洋を問わず「祈り」は人の生活の基本となる動作です。インドの手掌を合わせる合掌の敬礼作法が仏教に取り入れられ、合掌印となりました。合掌印は興福寺の阿修羅立像などの多くの仏像に見られます。この合掌印にも多くの形があり、密教では12種の相に分類されます。

一方、西洋でも祈る姿は多くの画家によって描かれました。グリュネヴァルトの「キリストの磔刑」のなかで、マグダラのマリアが激しく握り合わせた「祈りの手」には感動を覚えます。このように、強く握り合わされた手から軽く合掌している手まで、さまざまです。ルネッサンスのドイツのデューラーは手にとりつかれた画家とも言われますが、デューラーが描いた、優しく軽く手掌を合わせて「祈りの手」を原形とする多くの祈りの手が写真のように、彫刻として各国で創られています。

マグネット、リングスタンドやステンドグラスとして作られたものもあります。

また、ネクタイの柄にも取り入れられています。これらの20点の「祈りの手」が展示されています。



## 各種委員会報告

### 教育研修委員会

委員長 田 崎 憲 一

日手会教育研修委員会は一昨年から8名の委員となり、現在、田嶋 光、黒島永嗣、池田和夫、坪川直人、木森研治、西川真史、中尾悦宏と昨年より委員長をお引き受けした私の8委員と、担当理事の斎藤英彦、アドバイザーの土井一輝の先生方、計10名で構成されております。

教育研修委員会の活動は、教育研修会のテーマ・講師の推薦とビデオライブラリーの制作が主なものでした。一昨年の秋の第9回秋期研修会から秋期研修会は当委員会が主催して行うこととなり、会場の設定・共催の企業など周辺の準備作業も増え、また日手会学術集会でのビデオ演題の増加に伴いライブラリーに収載すべきビデオのチェック・修正の依頼など活動量や内容が増えております。また、手の外科専門医制度を確立するための、研修制度にも関わることが予想され大変な重責と感じております。

昨年春の第47回日手会の春期教育研修会終了時、前委員長の政田和洋先生から引き継ぎましたので、この1年の活動を振り返ってみます。まず、第48回日手会の第11回春期教育研修会の講師を学術会長の土井一輝先生に推薦し、会長とのやりとりの中で研修会のプログラムが決まりました。講演はいつも通り6名の講師をお願いして6時間の内容で、日整会教育研修は4単位ですが内容はすばらしいものと期待されます。次に、自主運営となって2回目の第10回秋期教育研修会は平成16年9月4日(土)5日(日)に大阪のテイジンホールで帝人ファーマ(株)との共催で行われ、参加者は161名と例年に比べやや減少したものの、初日夕方の症例検討会は多くの参加者で熱気にあふれ、ビールとつまみで喉を潤し活発な意見交換がみられ時間が過ぎるのも忘れるほど盛況でした。従来の懇親会を症例検討会に変えたのは良かったと思います。この秋の研修会期間に行われた委員会で平成17年9月3日(土)4日(日)の第11回秋期教育研修会について検討され、会場は九大教授岩本幸英先生のお力添えで九州大学百年講堂を使えるようにしていただき、講演は手の外科の医療保険、保存的治療などを含む広い分野から構成される9演題が決定されました。初日の夕方に症例検討会も行う予定ですので、診断や治療で相談したい症例がありましたら是非持ってきて検討しましょう。第12回以降の秋期研修会は、やはり9月の第1週末、会場は未定ですが東京や北海道など東日本が候補に挙がっています。交通の便も考え多数の参加者を見込んでおります。

春期研修会については、日手会学術集会の翌日に会長主催で行っておりますが、来年の第49回日手会(長野 昭会長)の第12回春期教育研修会以降、会長主催から当委員会の自主運営になる予定です。会場・期日の関係で学術会長になにかとお世話になることも多く、会長と緊密な連絡をとりスムーズに運営したいと考えております。春期研修会はやや専門的、高度な内容をとりあげていくようにマニュアル化されていますが、専門医制度を築くための更なる改訂を続けていく所存です。

教育用ビデオライブラリーですが、遅蒔きながら第46回日手会のKienböck病と津下先生御寄贈の手術手技が販売に至りました。大変お待たせし申し訳ありません。また、第47回日手会のビデオ演題はシンポジウム・一般演題を合わせ全部で21あり、現在ライブラリーに収載すべきもの、修正してOKとするもの、教育用には不適か否か委員会で検討しております。演題数が急に多くなったため提供がやや遅れる恐れもあり、会員諸氏にはご迷惑をお掛けするかもしれません。

第48回日手会のスローガンは「手の外科専門医を目指して」、テーマは「手の外科のEBMとQOL、そして教育」と、土井一輝会長の意気込みが感じられます。一般の整形外科医、形成外科医にも手の

外科に親しんで勉強していただき診療に役立てられるようにすることも当委員会の役割ですが、手の外科専門医を目指す先生方に教育研修の場を提供するのも重要な仕事です。この専門医制度については、専門医制度検討委員会が中心となって推進しておりますが、当教育研修委員会も理事、アドバイザー、各委員が一丸となって協力していきたいと思っております。

## 編集委員会

委員長 河井秀夫

日本手の外科学会編集委員会委員は現在、三浪明男（担当理事）、井上五郎、加藤博之、中村俊康、牧 裕、宮坂芳典と私の7名である。平成16年4月23日、日本手の外科学会開催時の大阪市と平成16年10月21日、日本整形外科学会基礎学術集会開催時に東京都で平成16年度は編集委員会を開催した。日本手の外科学会雑誌は、投稿論文（学術集会発表論文、自由投稿論文）および依頼論文などを掲載し、年6回発刊しているが、日本手の外科学会雑誌第1号は学術集会抄録集であるので、投稿論文は第2号から第6号までの各号5冊に掲載される。平成16年度の日本手の外科学会雑誌第21巻への総投稿論文数は180編で、和文自由投稿論文12編、和文学術集会発表論文165編、英文学術集会発表論文3編であった。平成16年4月に大阪市で開催された第47回日本手の外科学会一般演題数は396題であったので、投稿論文数172編は発表演題の中の43.4%である。

学術集会発表論文はできるだけ学術集会での質疑応答内容を取り入れる目的で、学会発表後原則として3週間以内に事務局に提出することになっている。提出された投稿論文は、日本手の外科学会評議員の先生方に専門分野を特定せず、広く割り振られ査読される。

学術集会発表論文は、原則座長の先生を含めた査読者2名、自由投稿論文は編集委員を含めた3名で行い、査読結果により書き直しや訂正を求めている。平成16年度の編集委員会では、査読者からの査読に関する指摘を検討した結果、今後は「採用を前提とした査読」は行わず、また著者名および所属機関を伏せた状態で査読を依頼する **Blind Review** とすることにした。そして当然のことではあるが、論文内容に責任を持ってもらうために、投稿時に著者ならびに共著者全員の署名提出を要求することにした。英文校閲に関しては事務局から手配した場合の料金を明示し、著者の希望を聞くほか、査読者が英文校閲を必要と認めた場合、事務局からの手配の諾否を投稿時に予め尋ねることにした。検討課題として個人情報保護法が施行されたこともあり、投稿規程の見直しや電子投稿、オンラインジャーナル化に向けた検討などがある。

これからも日本手の外科学会雑誌が質的内容のある充実した日本手の外科学会機関紙として機能するために、日本手の外科学会雑誌編集に対する会員の先生方のご指導、ご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

## 機能評価委員会

委員長 西 田 淳

機能評価委員会は、藤哲担当理事、伊地知正光アドバイザーのもとで6人の委員から構成され、①昨年アメリカ整形外科学会より認可されたDisabilities of the Arm, Shoulder and Hand (DASH) 日手会版の有用性の評価と、②手の外科機能評価表の改定を目指して活動しております。平成16年度に委員が大幅に入れ代わりしましたが、活動は前委員会とほぼ同じ内容が継続されています。

DASH評価法は、上肢の運動器に障害を持つ患者の能力低下 (disability) を自己評価する質問表として開発され、機能障害・症状に関する質問表と、選択項目のスポーツ・芸術活動、仕事に関する質問表の2部より構成されています。前者は、様々な動作ができたかを問う23項目の質問と、疼痛やこわばりなどの症状を問う7項目の質問からなり、後者は、日常生活とは異なるハイレベルのパフォーマンスを行う人を対象として、スポーツ・芸術活動に4項目、特殊な仕事に対して4項目の質問が用意されています。被験者は、評価前1週間の自分の状態を、5段階の選択肢から選んで番号をチェックします (実際に行っていない動作については、想像して返答します)。上肢全体の能力低下を評価するため、左右や障害の部位とは無関係に、その動作がどの程度可能であったかを評価します。各質問事項には、1～5点が配点され、機能障害・症状スコアは、採点の合計を回答項目数で割り、この平均値から1を引いて25をかけて100点満点に換算します。すなわち点数が高い程障害が大きいという意味になります。誰でもダウンロードを行うことにより使用可能です。World standard (American standard?) の評価法として、今後広く用いられる方法と考えられ、現在今枝敏彦委員を中心として主に前委員の施設の手根管症候群例を用いてDASH日手会版の評価を行い、Journal of Orthopedic Scienceに投稿する作業を行っております。

手の外科機能評価表の改定は腱損傷の機能評価 (担当：楠瀬浩一委員)、手関節の機能評価 (担当：伊地知正光アドバイザー)、神経 (特に手根管症候群) の機能評価 (担当：内山茂晴委員)、再接着手・指の機能評価 (担当：和田卓郎委員)、腕神経叢損傷の機能評価 (担当：沖永修二委員) の5項目について改定作業を行っております。前委員会より継続して改定作業を行っている腱損傷、手関節、手根管症候群、再接着の評価に関しては改定案が提出されており、可及的速やかな改訂版の出版を目指しております。また改訂版出版に際してはDASH日手会版および先天異常委員会作製の母指多指症の術後成績評価も加えて印刷する予定です。

## 用語委員会

委員長 岡 義 範

日本手の外科学会用語委員会は平成16年度に一新されたメンバーの下で、日手会用語集改訂第3版の発刊に向けての作業に入っています。

改訂第2版は委員全員による全用語の十分な検討によるものでありましたが、いくつかの誤植・用語の解釈の不備・他の関連用語集との不一致部などが指摘されてきておりました。そのため、前委員会にて全評議員に宛てたアンケート調査が行われ、種々のご意見を頂きました。そこでご指摘いただいた内容を充分検討・斟酌し、第3版に取り入れたいと考えております。これらを踏まえた上、今後の改訂作業の方針として、

- ① 5年毎の改定版発刊が望ましいとの観点から、第3版発刊時期は2007年4月（日本手の外科学会開催時）を予定する。
- ②用語集発刊形態は、冊子本およびCD-ROM化とその併用、学会雑誌への記載、ホームページに公開などを考えています。次版からは発行元が南江堂から日本手の外科学会に移りますが、冊子の値段、IT関連への掲載による著作権の問題など経済性を考慮する必要性など、その方法論は尚検討すべき余地があり結論は出ていません。今後理事会や評議員会に諮り決定して行く予定です。
- ③販売対象の限定は視野に入れず会員以外の誰でも手に入れることの出来るものとします。
- ④最も重要な作業は用語集の修正・校正です。これまでの改訂には委員全員が全ての用語に目を通し検討した物でありましたが、それでも誤植や解釈の不備などがありました。これを改善する方法は数多くの目を通す事であるとの考えから、昨年の評議員会にてお願いしましたように、全評議員の先生方に用語集の2～4頁を担当して頂き、各ページをそれぞれ2名で目を通して頂く事としました。その基本的校正観点は、誤字・脱字の修正、訳語の適性化、追加用語、日整会用語集との整合性などです。結果、大多数の先生から校正に関する意見を頂きました。大変お忙しい中をご協力いただき誠に有り難うございました。

これらの校正意見を基に、現在まで3回の委員会を開催し、逐一、校正・修正用語の検討を行っており、2007年の改訂第3版の発刊に向けて鋭意活動しております。

## 広報委員会

委員長 青木光広

平成16年度の日手会広報委員会はメンバーが入れ替わり、堀内行雄理事と田中寿一アドバイザー、青木光広委員長の構成となりました。委員は池上博泰、高原政利委員に加えて、香月憲一、砂川融、戸部正博の3委員が加わり精力的に活動しました。

本年度の重要な広報活動の一つは、新理事長と理事の就任に伴う日手会ニュース号外「新理事長就任特集号」を平成16年7月10日に発行したことです。従来より年2回発行されている日手会ニュースに加え、号外の発行で砂川、高原委員ともども編集作業に追われた1年でした。

さらに第2の重要な活動として、日本手の外科学会ホームページ更新の作業を行っております。香月・池上委員が中心となり手の外科学会の評議員にアンケート調査を行い、きわめて明瞭な結果を得ました。まとめると、2つの項目に大多数の評議員の賛同を得ました。それは、日手会会員専用ページを開くことで、具体的には日手会雑誌のオンライン査読を行うこと、日手会雑誌の電子ジャーナル化を実施するという事です。会議室、臨床・症例相談室の開設は、秘密保守の点から、今回は見送られる方向です。そのほかに、たくさんの貴重なご意見をいただきました。現在、会員専用ホームページを含めた改定の作業を行う案をもとに、信頼の置ける業者の選定などの作業に取り組んでおります。

第3の活動として、日手会パンフレット「20. 肘内障」、「21. 手の手術を受けられたかたへ」、が発行されました。原案を執筆いただきました会員の方々に感謝します。さらに、戸部委員が中心となり「22. リウマチによる手の変形（1）伸筋腱皮下断裂」、「23. リウマチによる手の変形（2）手指変形」、「24. 母指MP関節韌帯損傷」、「25. 合指症」、の発行への作業を進めております。また、要望の強い日手会パンフレットのDVD作成も企画中であります。グッズの販売状況では、ネクタイが相当数はけましたので、新しい柄のものを考えております。以上、簡単に活動報告を述べました。当委員会にご意見ご要望がございましたら、お気軽に広報委員までご連絡ください。

## 社会保険等委員会

委員長 立花 新太郎

1. 今年度は3回の委員会を開催した。
2. 外科系学会社会保険等委員会連合（外保連）を通じて診療報酬改定作業へ参加した。実務委員会、手術委員会は佐々木委員，立花委員が，処置委員会，検査委員会は清水委員，加藤アドバイザーが担当した。

平成17年度診療報酬改定要望として

新設 1. 神経交差縫合術

改定 1. 舟状骨偽関節手術

2. 茎状突起管解放術 を提出した。

3. 平成17年度日手会学術集会で，ランチョンセミナー「手の外科における保険診療」を開催すべく準備中である。永年御担当頂いた故中村純次先生に代わり，原 徹也アドバイザーが講演する。

## 先天異常委員会

委員長 福本 恵三

本年度の先天異常委員会は，柴田 実担当理事，川端秀彦アドバイザー，石川浩三，高山真一郎，堀井恵美子，福本恵三各委員で構成されています。

委員会の主な活動の一つは先天異常懇話会の開催です。本年度の先天異常懇話会は，第48回学術集會会期中にランチョン形式で症例検討を行うこととし準備を進めています。内容については高度なものから基本的なものまで広く取り上げる予定です。懇話会は学会ではありません。先天異常を多く扱っておられる方から，経験の少ない方まで，ランチをとりながら気軽な雰囲気で見聞交換を行っております。日常診療で疑問に思っておられる事，治療方針に困っておられる症例などをお持ちいただき，多くの先生方に御参加いただきたいと存じます。懇話会以外にも，会員の先生方が先天異常についていつでも相談できるような先天異常相談システムを検討しています。インターネットを用いる場合，個人情報保護，セキュリティーの確保など問題が多く存在します。専門家の意見も参考にして，問題のない方式を作りたいと考えています。

手の先天異常症例の登録は1997年から開始し，多くの施設から御登録をいただきました。登録数は2004年10月までで1921例となっています。これらの症例は委員会で作成した先天異常分類に従って分類され，分類の妥当性の確認等にも大変役立っております。今後は登録していただいた先生方の御利益となるように，登録者ごとの登録内容をデータベース化したものをお渡しする事や，インターネットを用いた簡便な登録法などを検討しております。先天異常登録は引き続き行ってまいりますので，是非御登録下さい。登録用紙が必要な場合は御連絡いただければ委員会よりお送りいたします。

広報委員会で作成しておられる外来で利用できるパンフレットの先天異常版として，合指症と多指症のパンフレットの原案を作成しました。現在広報委員会で御検討いただいておりますので，近い将来には皆様にお使いいただける事と存じます。

母指多指症術後の評価基準は昨年度で完成いたしました。機能評価委員会の御了承が得られれば，機能評価表に取り入れていただくとともに日手会誌に掲載する予定です。本年度は合指症術後の評価基準を作成しております。

先天異常委員会の分類で用いる用語と手の外科用語集との整合性については，用語委員会とともに

引き続き検討しております。

先天異常委員会は手の外科学会の各委員会の中では唯一、ある疾患群に関する諸問題を取り扱うという意味において特異な存在です。今後もこの分野を通して学会の発展の一助となるよう活動してまいりますので、皆様の御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

## 国際委員会

委員長 金谷文則

平成16年度の国際委員会の活動について報告いたします。なお、本委員会に先立ちまして生田会長、阿部副会長の下、前および元国際委員会のメンバーを中心とした local host committee の尽力により平成16年11月12～15日に大阪で開催されました第5回 APFSSH が成功裏に閉会しましたことを報告いたします。

平成16年度第1回国際委員会は平成16年12月4日名古屋ホテルキャスルプラザにて開催されました。今回の議題は1. JSSH-ASSH traveling fellow の選出, 2. JSSH-HKSSH exchange traveling fellow 選出, 3. Corresponding member の選出, 4. Bunnell traveling fellow ・香港フェロー訪問日程の決定, 5. 第4回日米手の外科合同会議への参加呼びかけでした。

### 1. JSSH-ASSH の Traveling Fellow 選出

Traveling fellow 募集2名に対して、本年度の応募者は3名しかおらず、2003年の10名に比べても少ない応募でした。投票により今年の traveling fellow として、大阪市立大学 香月憲一先生、広島大学 砂川融先生を理事会に推薦いたしました。本 traveling fellow は日手会の代表であり、より多くの応募者から適当な人物を選ぶことが望ましく、今後評議員や主任教授への連絡を徹底して適当な候補者を推薦してもらい、さらに日手会ニュースまたはホームページに traveling fellow の募集を掲示し会員に周知して行くことを決定いたしました。学会員の皆様には是非、応募していただきたいと存じます。

### 2. JSSH-HKSSH Exchange Traveling Fellow 選出

昨年は SARS で中止されましたが、本年は traveling fellow 募集1名に対して4名の応募があり、投票により陸上自衛隊北部方面衛生隊尼子正敏先生を理事会に推薦いたしました。来年度も多くの応募を期待しております。

### 3. Corresponding Members 選出

本年度は候補者が無く審議いたしませんでした。

### 4. Bunnell Traveling Fellow, Hong Kong Fellow 訪問日程に関して

Mayo の Dr. Alexander Shin が日手会を挟んで訪日予定であり、例年のごとく国内数施設の見学を予定しておりましたが、本人の都合で日手会学術集会のみの参加になり、かわりに8月20～27日に訪日することになりました。関係諸機関にはこれからご依頼いたしますが、日米両国の手の外科学会の発展のためご協力のほどお願いいたします。

### 5. 第4回日米手の外科合同会議への参加

2005年3月19日～22日ハワイ、オアフ島で第4回日米手の外科会議が開催されました。今回は米国が主体の運営で、日本側から口演33題、ポスター69題と多数の発表がありました。今後も日米交流のため活動を続けたいと思います。

## 専門医等検討委員会

委員長 中村 蓼 吾

専門医等検討委員会は、生田義和前理事長が立ち上げられ、3つのワーキンググループに分かれ、専門医制度について検討してこられました。

本年度、理事長のバトンとともに、本委員会の委員長をおおせつかり、国民に理解される専門医制度の早期の実現を目指し、土井一輝 WG1 委員長、長野 昭 WG2 委員長、阿部宗昭 WG3 委員長のご協力を得て、論議をすすめてまいりました。下関での評議員会、総会には、一応の成案をお示しできるものと思います。会員諸兄弟のご意見を承りたいと存じます。

なお、今回は制度全般を検討いただいている WG1 の土井委員長にこれまでの検討内容を書いていただきました。

WG1 委員長 土 井 一 輝

### 【経過】

生田義和前委員長から WG1 が受け賜った検討課題は、制度の名称、研修期間など研修制度の作成であります。2003年12月15日に原案を作成し、WG1 委員会内で検討した案を WG1 検討第 1 案として 2004年 1 月 5 日、理事会に提出し、同時に日手会ホームページにも掲示し、全会員の意見を募りました。理事会での検討後、再度、委員会で修正を行い、第 2 案として 2004年11月17日に中村蓼吾現理事長に提出し、2005年 1 月 8 日での理事会で検討後、3 回目の検討を現在行っております。

今後、定款等検討委員会で検討の後、平成17年 4 月20日に開催予定の平成17年度第 1 回理事会、評議員会で検討されます。

### 【検討結果の内容概略】

目的：手の外科学の専門教育制度の確立が第一義であり、専認協への専門医制度の申請は今後の検討課題であるが、これも見据えた制度を作成する。

検討のポイントは、①どの程度の技術レベルの専門医にするか、②研修期間は、③経験手術症例数は、④研修施設の条件は、⑤指導医制度、⑥整形外科と形成外科の特異性はどうかなどについて、紆余曲折の経過をたどって来ました。

専門医の対象・レベル：専門医の数を400名前後と予測したレベルとし、あまり、高度な専門医のみを対象とせず、かつ、専認協の専門医条件を満たすものとし、専門医試験は不可欠であり、そのために申請に必要な専門研修期間は5年間とし、その内、1年間は専門医のいる研修病院での研修を義務付けました。平成16年度から卒後研修制度が始まったため、その前後で研修期間に差がでる可能性もありますが、経験手術件数により早期申請に抑制をかけた形をとりました。特に、専門医としての技術を要求するため、手術経験・症例数を加え、専門医に一定の手術技術レベルを求めることを重視しました。研修施設の条件が問題であり、地域により研修施設に恵まれない所もあるため、基幹研修施設と関連研修施設とし、両施設で研修することにより、必須手術症例の経験を得やすくしました。

指導医制度も一度、専認協が求めた制度でしたが、その後、不要との通知を受け、専門医一本で方向付けをしました。

また、必須カリキュラムは形成外科医には少し厳しいとの意見もあり、緩和しましたが、やはり、手の外科の基本カリキュラムは習得していただくよう必須カリキュラム制度は残しました。

申請の付帯条件として、学会参加、論文発表などの研修実績も加えました。具体的な内容は HP に

掲載してありますし、最終案は第48回日本手の外科学会で会場に掲示しますのでご参照ください。ただし、本制度発足のためには、発足時に一定数の専門医が必要であり、他の学会専門医制度を見習って、特別措置専門医申請制度も検討しております。

## Journal of “Hand Surgery” Asian Volume 事務局より

Assistant Editor 別府 諸 兄

Editor in Chief 生 田 義 和

昨年の5th APFSSH学会前日の11月12日にJournal of “Hand Surgery” Asian VolumeのBusiness Meetingが開催されました。この際に、Journalの将来について3項目の提案がありました。まず、投稿件数の増加にともない年間の雑誌発行部数を年に2回から3回にすることです。これに対して、the Management Committee ChairmanであるDr. Michael Tonkinは出版社と交渉し、現在の年間購読料US50\$の値上げをしないで発行部数を上げるには、購読者数を年間120部増加する必要があると報告しました。現在の各国の購読部数は、多い順にみますと日本367、オーストラリア111その他であります。APFSSHの各国に交渉して、少なくとも120の増加を依頼することになりました。

さらに、現在の事務局である日本の仕事内容はReview systemが香港のときより、充実したと大変評価されました。しかし、今後さらに投稿論文が増加することから、internet submission and Review systemを検討してほしいという提案がありました。これについて、前向きに検討することになりました。しかし、問題は英語、日本語の両方が使えるシステムはないのが現状です。

最後に、やはり雑誌の内容を向上させる必要が最も重要な課題であると提案されました。

本雑誌はIndex Medics (データベースMEDLINEに同じ)に掲載はされましたが、impact factorはまだありません。因みに、Impact factorは、学術雑誌をそれぞれの雑誌がいかに学会に対して影響をもちえたかを引用という視点から数値として算出したものです。一般には学術雑誌のランクづけ指標のように考えられていますが、元々は学者の研究の便のために創案したものでした。Impact factorはアメリカのISI社 (Institute for Scientific Information) から、発行されているJournal Citation Reportsに掲載されています。なお、勿論ですが、これは英文雑誌の指標であって、和文雑誌はまったく対象とはなっていません。全世界では5686誌が対象となっております。

全世界には推定10万の学術雑誌があるといわれていますので、そのうち5%が対象になっているにすぎません。また、最終的に載せるか載せないについてはISIが私企業である以上、ISIの判断で行われることは言うまでもありません。しかしながら、現在、英文雑誌の重要な指標であることには間違いがありません。

今後、これらの3項目について検討を行い、さらに充実したJournal of “Hand Surgery” Asian Volumeを編集していきたいと思っております。

これも日本手の外科学会会員の皆様のご協力なしでは不可能であります。

何卒、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

### 参 考

1) Institute for Scientific Information <http://www.isinet.com/>

2) Impact Factor <http://www.nacos.com/nakanishi/impactfactor.htm>

## .....お知らせ.....

### 手の外科研修施設一覧

研修内容などの詳細は日手会ホームページをご覧ください。

研修希望者は各研修施設に直接申請、交渉を行ってください。教育研修委員会および日本手の外科学会は研修医の申請、および研修に関しては一切、関与いたしません。

施設番号	施設名	研修責任者	住所	TEL
1	北海道大学医学部附属病院整形外科	三浪明男	060-8638 札幌市北区北15条西7丁目	011-716-1161
2	大阪労災病院	橋本英雄	591-8025 堺市長曾根町1179-3	072-252-3561
3	山口県厚生連小郡第一総合病院	土井一輝	754-0002 山口県吉敷郡小郡町下郷 862-3	083-972-0333
4	新潟手の外科研究所	吉津孝衛	950-0965 新潟市新光町1-18	025-283-0306
5	東京手の外科/スポーツ医学研究所	山口利仁	192-0002 八王子市高月町360	0426-92-1115
6	埼玉手の外科研究所	児島忠雄	355-0072 東松山市石橋1721	0493-23-1221
7	聖隷浜松病院 手の外科・マイクロサージャリーセンター	斎藤英彦	430-8558 浜松市住吉 2-12-12	053-474-2222
8	鈴鹿回生総合病院	藤澤幸三	513-0836 鈴鹿市国府町112-1	0593-75-1212
9	医療法人あかね会 広島手の外科・微小外科研究所	津下健哉	730-0811 広島市中区中島町9-5 三津石ビル3階・4階	082-544-1227
10	大阪厚生年金病院	正富 隆	553-0003 大阪市福島区福島4-2-78	06-6441-5451
11	名古屋掖済会病院整形外科	渡邊健太郎	454-0854 名古屋市中川区松年町4-66	052-652-7711
12	弘前大学医学部附属病院整形外科	藤 哲	036-8562 弘前市在府町5	0172-33-5111
13	広島大学整形外科	越智光夫 石田 治	734-8551 広島市南区霞1-2-3	082-257-5232
14	奈良マイクロサージャリー・手の外科研究所（西奈良中央病院内）ならびに奈良県立医科大学整形外科	玉井 進	631-0024 奈良市百楽園5-2-6 （西奈良中央病院）	0742-43-3333
15	新潟県立瀬波病院リウマチセンター	石川 肇	958-8555 村上市瀬波温泉2-4-15	0254-53-3154
16	山口県立中央病院	酒井和裕	747-8511 防府市大字大崎7	0835-22-4411
17	愛野記念病院	貝田英二	854-0301 長崎県南高来郡愛野町3838-1	0957-36-0015
18	慶應義塾大学病院整形外科	仲尾保志	160-8582 東京都新宿区信濃町35番地	03-3353-1211
19	信州大学整形外科	加藤博之	390-8621 松本市旭3-1-1	0263-37-2659
20	大阪医科大学整形外科	阿部宗昭	569-8686 高槻市大学町2-7	072-683-1221

## 日本手の外科学会第11回秋期教育研修会

会 期：平成17年9月3日(土)，4日(日)

会 場：九州大学医学部百年講堂  
福岡市東区馬出3-1-1 TEL 092-642-6030

企 画：日本手の外科学会教育研修委員会  
※日本整形外科学会，日本形成外科学会の教育研修講演単位として申請の予定です。

共 催：久光製薬株式会社

受 講 料：20,000円（テキスト代，2日めの昼食代，症例検討会を含む）  
※日整会教育研修会受講料は別途

症例検討会：第1日めの終了後，問題症例などについて討論する症例検討会を開催いたします。  
症例を提出されたい方は予め事務局宛ご連絡ください。※軽食を用意いたします。

申込方法：官製はがきに氏名・連絡先住所・連絡先電話番号/ファックス番号・メールアドレス・勤務先・卒業年度をご記入の上，下記申込先あてお申し込みください。  
申込締切：7月末日 ※先着200名とさせていただきます。

申 込 先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内  
日本手の外科学会事務局「日手会第11回研修会係」宛  
TEL 052-836-3511/FAX 052-836-3510

### プログラム(予定)

#### 9月3日(土) 第1日め

13:55～	開会式	
14:00～15:00	手の外科治療の一般原則	斎藤 英彦 (聖隷浜松病院手の外科マイクロセンター)
15:10～16:10	手の外科診察に必要な機能解剖	麻生 邦一(麻生整形外科クリニック)
16:20～17:20	末梢神経修復術の基本と応用	土井 一輝(小郡第一総合病院)
17:30～	症例検討会	

#### 9月4日(日) 第2日め

8:50～ 9:50	手部の骨折	副島 修(福岡大学整形外科)
10:00～11:00	肘のスポーツ傷害	高原 政利(山形大学整形外科)
11:10～12:10	手関節疾患と外傷	中尾 悦宏(名古屋大学手の外科)
13:00～14:00	Sociomedical Aspect からみた手の外科	吉村 光生(吉村整形外科医院)
14:10～15:10	手の熱傷	田中 克己(長崎大学形成外科)
15:10～16:10	手指伸筋腱損傷	田崎 憲一(荻窪病院整形外科)
16:20	閉会の辞，修了証書交付	

## 日本手の外科学会 教育研修ビデオライブラリー

第48回日本手の外科学会会期中に閲覧いたします。

希望者には実費（1本3,000円）で頒布いたしますので、事務局受付でお申し込みください。

巻数	タイトル	講師
1	腱移行術	津下 健哉
2	手の外科医に必要な皮弁の挙上法	土田 芳彦 他
3	橈骨遠位端骨折に対する種々の手術的治療法	斎藤 英彦 他
4	鏡視下手根管開放術	奥津 一郎 他
5	手関節鏡	玉井 和夫 他
6	Dupuytren 拘縮の手術 有茎血管柄付きDIP関節を利用した指PIP関節再建のコツ	福居 顕宏 黒島 永嗣
7	Herbert Screwによる舟状骨偽関節手術	井上 五郎
8	腕神経叢損傷全型麻痺の再建手術： Double Free Muscle Transfer法(新版)	土井 一輝
9	リウマチ手関節の手術	政田 和洋
10	母指再建術①②	川端 秀彦 他
11	母指再建術③④	稲田 有史 他
12	遊離筋膜脂肪弁移植を用いた先天性近位橈尺骨癒合症の授動術	金谷 文則
13	手の外科手術手技 (1)	津下 健哉 木森 研治
14	手の外科手術手技 (2)	津下 健哉 木森 研治
15	手の外科手術手技 (3)	津下 健哉 木森 研治
16	手の外科手術手技 (4)	津下 健哉 木森 研治
17	指切断の被覆法	土井 一輝 他
18	手の外科手術手技 (5)	津下 健哉 木森 研治
19	手の外科手術手技 (6)	津下 健哉 木森 研治
20	手の外科手術手技 (7)	津下 健哉 木森 研治
21	Kienbock病の手術	安田 匡孝 他
22	PIPJ骨折牽引療法 指尖部切断再接着 尺側手関節部痛に対する尺骨楔状短縮骨切り術	黒島 永嗣 服部 泰典 吉田 竹志
23	手の外科手術手技 (8)	津下 健哉 木森 研治
24	手の外科手術手技 (9)	津下 健哉 木森 研治

〈お詫び〉2004年度版（No.21～24）は、著作権にかかる問題で2度にわたる再編集が発生し、この程ようやく完成いたしました。お申し込みいただきました会員の先生方、また、ビデオ制作者の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。

## 関連学会・研究会のお知らせ

### 第48回日本形成外科学会学術集会

会 期：平成17年4月13日(水)～15日(金)  
 会 場：東京都／新高輪プリンスホテル 国際館パミール  
 会 長：保阪 善昭（昭和大学形成外科）  
 連絡先：〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8 昭和大学医学部形成外科学教室  
 TEL：03-3784-8548(医局)／FAX：03-3784-9183  
 E-mail：showakeisei-gakkai@umin.ac.jp  
 詳細は <http://square.umin.ac.jp/jsprs48/index.html>

### 第44回手の先天異常懇話会

会 期：平成17年4月21日(木)（第48回日手会第2日）12：30～13：30  
 会 場：海峡メッセ下関8階 801会議室（第4会場）  
 連絡先：〒355-0072 埼玉県東松山市石橋1721  
 埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所 福本恵三  
 E-mail：handsurg@seikei.or.jp

### 第28回末梢神経を語る会

会 期：平成17年4月22日(金)（第48回日手会第2日め終了後）18：00～20：00  
 会 場：海峡メッセ下関 9階海峡ホール  
 テーマ：末梢神経・脊髄神経に関する最近の知見  
 講 演：1. 損傷脊髄に対する神経幹細胞移植 ―現状とその展望―  
           慶應義塾大学整形外科 講師 中村雅也  
           2. Restoration of Function after Re-Implantation of Avulsed Roots into  
           the Spinal Cord Professor of Peripheral Nerve Surgery, The Royal  
           National Orthopaedic Hosp., Stanmore, UK Prof. Thomas Carlstedt  
 世話人：貞廣哲郎, 光嶋 勲, 越智光夫  
 共 催：エーザイ株式会社

### 第17回日本ハンドセラピィ学会学術集会

会 期：平成17年4月23日(土)（第48回日手会第3日）9：30～16：00  
 会 場：海峡メッセ下関9階 海峡ホール  
 テーマ：筋再教育の実際  
 参加費：医師（日手会会員）無料（抄録代は別途500円頂戴いたします）  
           会 員 3,000円  
           非会員 5,000円  
           学 生 500円  
 連絡先：〒754-0002 山口県吉敷郡小郡町下郷862-3  
 小郡第一総合病院 リハビリテーション科 担当：渡邊政男  
 TEL 083-972-0333(内線190)／FAX 083-973-4909  
 E-mail：rehab@ogoridaiichi.jp

### 第7回リウマチ手の外科研究会

会 期：平成17年5月13日(金) 17:00~19:00

会 場：横浜市／はまぎんホールヴィアマーレ

詳細は <http://www.ra-hand.com/>

### 第24回 新潟手の外科セミナー

会 期：平成17年8月4日(木)～6日(土)

会 場：新潟市/新潟大学医学部第3講義室

共 催：財団法人新潟手の外科研究所，新潟大学整形外科・形成外科手の外科班

講 師：斎藤英彦（聖隷浜松病院），三浪明男（北海道大学），関 利明（新潟市民病院）  
金谷文則（琉球大学），藤 哲（弘前大学），今井春雄（今井整形外科），石川  
肇（新潟県立瀬波病院），吉津孝衛，牧 裕，坪川直人（新潟手の外科研究所）

日本整形外科学会教育研修会：6単位（申請中）

対 象：整形外科または形成外科の基礎研修を修了し，手の外科の症例を3年程度経験した  
上で，より深く手の外科の基礎と主要問題について系統的に研修することを希望す  
る若い医師

参加費：40,000円（テキスト代金を含む）

申し込み方法：官製ハガキに氏名，勤務先とその住所（含TEL），卒後年数を記入して

6月30日迄に下記宛に送付，もしくは <http://www.tenogeka.com/> を参照

TEL：025-283-0306

（財）新潟手の外科研究所 手の外科セミナー 係

〒950-8556 新潟市新光町1-18

### 第16回日本末梢神経学会

会 期：平成17年7月22日(金)～23日(土)

会 場：金沢市／ホテルイン金沢

会 長：廣瀬源二郎（金沢医科大学脳脊髄神経治療学（神経内科））

連絡先：〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

TEL：076-286-3511(内線3503)／FAX：076-286-3259

詳細は <http://www.kanazawa-med.ac.jp/~neuro/jpna-home.htm>

### 第13回日本形成外科学会基礎学術集会

会 期：平成17年10月21日(金)～22日(土)

会 場：東京都／ヒルトン東京ベイ

会 長：梁井 皎（順天堂大学形成外科）

連絡先：〒113-8431 東京都文京区本郷3-1-3

TEL：03-5802-1225(医局)，03-3813-3111(代)／FAX：03-5689-7813

### 第32回日本マイクロサージャリー学会

会 期：平成17年12月1日(木)～2日(金)

会 場：仙台市／仙台国際センター

会 長：山田 敦（東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座形成外科学分野）

連絡先：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

## 事務局便り

## キッコロ・モリゾーと手

3月25日より事務局のある愛知：名古屋でいよいよ愛・地球博が開催されます。

先日事務局スタッフと地球博のマスコット：キッコロとモリゾーの手は何本あるのだろうかという事で議論になりました。「木の枝が手のようになっているから実は手ではない」とか「木の枝だから1本」とか「木の枝が腕で葉が手」とか何とか……。

結局、童話の中のキャラクターなので、手は何本なんて関係ないということになりました。「トリビアの泉」に投稿出来るくらい知っていてもしょうがないムダ知識？ 手の外科学会に浸りすぎでしょうか……。

少し前までは「名古屋飛ばし」で話題になっていた名古屋も、中部新空港（通称：セントレア）の開港、高速道路の開通、観光スポットの開園（名古屋港にイタリア村、繁華街の錦三丁目に観覧車が出現！）、老舗デパートのリニューアルと今、好景気です。この機会にホットな愛知：名古屋に是非お立ち寄りください。

担当：岡田富貴

## 編集後記

例年より雪が多く、長かった冬もようやく終わり、東北にも春が訪れました。春爛漫の下関（日手会）でお会いしましょう。

（文責：高原政利）

## 広報委員会

（担当理事：堀内行雄 アドバイザー：田中寿一 委員長：青木光広 委員：池上博泰、香月憲一、砂川 融、高原政利、戸部正博）